



ないとうけいこ  
内藤圭子議員

# 安平町ゼロカーボンシティ実現のために

**質問** 安平町ゼロカーボン政策の現状と今後について。  
**答弁** 令和6年1月23日にゼロカーボンシティ推進協議会を設立し安平町ゼロカーボンシティを表明した。総務課ではナチュラルビズの実践、公用車のEV車への変更、建設課では公共施設や街灯のLED化、税務住民課では町内9か所にEV充電器設置の取り組み。子どもたちへは早来学園6年生を対象に総合学習の一環として気候変動の授業を実施。環境フォーラムの実施。広報あびらにてゼロカーボン関連記事の掲載。令和7年度は総合庁舎、ときわ公園、スポーツセンター、追分中学校、2町事務組合のLED化を予定。国の重点対策加速化事業が採択されこの事業計画、太陽光発電をメインとした地産地消の再エネ100%を目指す計画も行っていく。しかし、重点対策加速化事業だけでは目標に達しないので来年度以降、個人住宅向けや企業向けの助成事業を検討する。

**質問** 早来学園でゼロカーボンの授業を行ったというが早来学園以外での計画はあるか。  
**答弁** 環境教育は今に始まったことではなく旧遠浅小学校でも行ってきた。様々な場面で行っていかなくてはならない。大人に対しても引き続き行っていかなければならない。自然体験が環境教育につながるかと考える。  
**質問** 太陽光発電以外に何か考えているか。  
**答弁** 太陽光発電をメインに考えているが、小水力発電の可能性について調査研究したい。  
**質問** 安平町は畜産の町。バイオガス発電は考えられないか。  
**答弁** 量の確保、において、輸送等慎重に検討する必要がある。実際行っているところでも課題が多いと聞いている。

**質問** 太陽光発電の廃棄物対策は。  
**答弁** 南幌町にリサイクル施設があると聞いている。今後リサイクル施設はできると予想する。  
**質問** 町内の公共施設のLED化はどれくらい進んでいるか。  
**答弁** 街灯、防犯灯は100%。建物については60%。  
**質問** 町内事業者の協力も欠かせないが連携は。  
**答弁** 町内のエネルギー消費の大きい企業はそれぞれ取り組みを行っていくことになるが情報共有を行っていく。  
**質問** 個人宅の協力も欠かせない。個人宅への取り組みは。  
**答弁** 北海道の助成事業がある。町として今後太陽光発電設備、蓄電池、省エネ家電購入、電化、自家用車EV車、PHEV車などの支援について検討する。

**質問** 広報あびらに毎月ゼロカーボンについての記事があるが町のホームページにゼロカーボンコーナーを作って情報を載せることはできないか。  
**答弁** ホームページで掲載できるよう検討する。  
**質問** 2030年までにCO<sub>2</sub>、48%削減のタイムスケジュールは。  
**答弁** 重点対策加速化事業が最優先。9月の補正の前に議員に説明する。  
**質問** 令和12年まで重点対策を優先して事業が行われますが、事業に対して入札が発生するか。  
**答弁** 交付金の申請については毎年度申請する。事業所の選定については安平町の契約規則に基づいて選定する。  
**質問** 公共施設の省エネ化の当該施設の担当は誰になるのか。  
**答弁** ある程度税務住民課が主体となって各課と連携をとって進めていく。

**一般質問を終えて**  
ゼロカーボンの取り組みは国の施策なので情報も多く学びも多かったです。安平町はこれから様々な取り組みが始まります。町民の皆様と情報共有しながら楽しく省エネ等エコな暮らしを实践したいと思えます。



うめ もり たか ひと  
梅森敬仁議員

## ラビダス・ソフトバンクデータセンターへの対応 教育環境について

### ラビダス・ソフト バンクデータセン ターの事業展開に 対して町の対応

**質問** 明確な施策が見えてこない。スピード感が必要

であると思うが現在の進捗状況はどうなっているのか

**答弁** 震災以降の安平町を取り巻く社会経済情勢は目まぐるしく動いており、教育によるまちづくりの取り組みを進めてからは住宅需要に対応するため、民間空地、空家の活用と併行させながら住まいの確保対策を展開しており、引き続き人口確保や住まいの確保対策、いわゆる移住定住については民間賃貸住宅の助成や町有地等の分譲を継続する考えであります。情報収集については報道機関や関係する市、北海道の担当者、場合によっては必要に応じて直接企業の担当者から情報を収集してきました。

今後もしスピード感を持ち対応したいと考えています。苫小牧地方総合開発期成会からの要望としては、イン

フラ・住環境・企業整備の促進、投資促進のための支援策、水量確保のための検討、中長期的なビジョン、計画に基づいた対応をすることを関係機関に伝えていきます。

国からの支援策については、地域産業構造インフラ整備推進交付金がこれにあたると思いますが当町から申請してもかなりハードルが高いものと考えております。これから先に北海道バレービジョン協議会への加盟の打診があった際には、その目的、事業計画、内容を精査し検討していきたいと考えています。

北海道バレー構想の中で安平町としての役割が本当にどこにあるのかを慎重に考え、今後も情報収集に努めしつかりと町民の皆様へ情報を提供していくつもりです。

### 安平町の 教育環境の現状

**質問** 早来学園のカビ問題は解決したのか。エアコン

設置の概要について説明願いたい。

**答弁** 昨年度に一部結露の発生がありました。が学校運営上は支障がない状況となりました。エアコン設置については今年6月から来年3月までに16教室に設置され環境は改善されていくと考えています。

**質問** 早来学園の教室・教員不足の対応策について説明願いたい。

**答弁** 教室・教員共に足りていないのが実情です。教室は学校が工夫してしています。教員については資格外の例えばスクールサポーター・地域おこし協力隊などが教員の業務負担などの軽減に貢献しています。

**質問** 追分地区と早来地区の教育環境の違いについて説明願いたい。

**答弁** 大きな違いはありません。施設としての教育環境・児童生徒数の違い、小中一貫教育における校舎分離型と校舎一体型の違いはあるものの、教科書、教育課程の編成など教育の方向性は同じであります。地域

に違いはありますがその違いや特性を活かした魅力ある教育活動と学校づくりに取り組んでいます。

### 一般質問を終えて

ラビダスやソフトバンクデータセンターの事業展開が現実のものとなりました。町長は「今7200人台の町に、例えば2万人増加で町が壊れてしまうのではないかとというインパクトも場合によっては出てきます」と答弁しました。だからこそ、スピード感を持った対応策が必要になると感じました。

追分地区と早来地区の教育環境の違いについては、地域性の違いはあるものの教育の方向性は同じであり格差はないことがわかりました。

適切な早期情報発信により地域住民の疑問や不安な気持ちを払拭することの重要性を改めて感じました。



く どうしゅういち  
工藤秀一議員

# 公共ライドシェアの社会実験に向けて ゼロカーボン施策で 吸収量目標ゼロは理解できない 町民センター改修後の利用者の声 置き勉の必要性と教科書デジタル化に向けて

## 公共交通整備について

**質問** バスやハイヤーなど交通空白が生じ不便に感じている声を聞く。空白解消の取り組みは。

**答弁** 地域おこし協力隊制度や助成対策により現在2名採用、週6日営業再開。また国の補助事業が決まり、実証実験用車両確保。ライドシェアの社会実験を行う。

**質問** ライドシェアの取り組み状況を伺う。

**答弁** 自家用有償旅客運送の公共ライドシェア実験に挑戦。ライドシェアデマンド交通システム・MITTの検討。

**質問** MONETとMITTの関係は。

**答弁** MONETはデマンドバスをスマホから予約。MITTはライドシェア・デマンドバスに対応し、電話予約に加えスマホ予約に対応可能。実験後移行検討。

**質問** 実験において料金やドライバー採用について。

**答弁** 年齢や免許、報酬など先進地事例や関係者と協議し詰めていく。

**質問** 交通系ICカードが普及しているが安平町は。

**答弁** キャッシュレス化のハードルは高いが国費事業でもあり要望していく。

## ゼロカーボンシティに向けた取り組みについて

**質問** CO<sub>2</sub>吸収量の対策が見えない。

**答弁** 吸収源は森林の蓄積量が増えているのでゼロとしている。

**質問** ゼロカーボンは排出量に対し吸収量を差し引いた量をゼロにすること。排出量ゼロにするのは難しいので吸収量を増やして均衡を保つ施策。吸収量目標ゼロは理解できない。

**答弁** 2050年がゼロカーボン最終目標。今回は2030年48%削減に向けた重点対策。吸収源については2030年以降、再度検討する。

## 町民センターの改修状況

**質問** 改修前同様に管理人が必要との声が多数。

**答弁** 無人運用でスタート。利用状況や安全安心の確保を踏まえ管理人配置体制に移行する。

**質問** 会議室のオートロックは開錠後ドアを開閉するとまたロックされる。次の参加者はまた開錠操作必要。

**答弁** 防犯性及び安全性確保に向け導入したが、大変ご不便かけている。運用方法を含め検討する。

**質問** 合宿所トイレがウォシュレット化していない。今はどこも設置している。

**答弁** 町内キャンプ場にも設置されている中、疑問に思う。

**質問** 利用状況や要望を踏まえ必要と感じている。

**質問** 地震で破損した外周階段等の修理は。

**答弁** 施設点検で把握。安全性に関わる箇所は早急の対応必要と認識。

**質問** 合宿所の案内看板が必要と思うが。

**答弁** 設置できるかどうか見積り確認し協議する。

## 置き勉について

**質問** 小学生のランドセル

は重い。肩や背中の負担について健康面懸念。

**答弁** 姿勢悪化、肩こり腰痛、疲労感や通学ストレス懸念、使用しない教材は学校に置くなど工夫必要。

**質問** 文科省は事務連絡により置き勉の配慮を周知。

**答弁** 早来学園は全教科、追小は主要教科除く、追中は全教科、各自のロッカーに。背景は健康への配慮。

**質問** 背中にランドセル、前にリュックの子を見かける。部活の道具置き場は。

**答弁** 教材については一定程度置ける。部活・習い事のもの難しい。

**質問** デジタル教科書普及していない。

**答弁** 文科省は紙の教科書との併用を議論。方向性を見て町として今後検討。デジタルドリルが入り活用を学校と連携しタブレットで家庭学習できるよう進める。教科書とタブレット持ち帰ると重たくなる。デジタルドリルを持ち帰る規定、ガイドライン等の整理を教育委員会が進めている。



みうら えみこ  
三浦恵美子議員

## 教育行政について 子どもたちのやる気と向上心を 大切に出来る教育行政を求めて 子どもにやさしいまちづくりを考える 教育行政の執行の適正化について問う

**質問** 教育行政の執行について、文部科学省の通達では、基本的な方針については、教育委員が方向性を決め、それに基つき教育委員会の事務を進めていくとされているが、本町はそのとおり執行されているか伺います。

**答弁** 地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び文部科学省の通達で定められているとおり本町も教育行政を執行している。事務局から執行状況を報告し、必要な案件は教育委員会に提案し、教育委員のみなさんに審議頂き、合議体としての決定を経て執行している。議決を要しない案件も、教育委員と事前に情報共有を行い、意見を頂きながら、事務を進めている。

**質問** 令和7年度における平和記念式典への派遣事業を取りやめた経緯について伺います。

**答弁** 本町ではこれまで平和記念式典への児童生徒の派遣を、戦争の悲惨さや平和の尊さを直接学ぶ貴重な機会と位置づけ、実施してきた。しかし、参加児童が

限られる事、夏季の厳しい暑さに伴う健康面の不安、語り部の高齢化等課題がある中、社会教育委員からは実施すべきと見直すべきとの両方の意見があり、令和7年度は一旦見送り、町民が等しく学べるよう、平和教育全体を見直す事とした。

**質問** 部活動の地域移行の現状と業務委託内容について伺います。

**答弁** 国の実証事業として実施中。その業務をNPO法人に委託。令和7年度で安平町の部活動が終了する中、追分中学校は6つの部活動中5つが地域移行し1つが検討中。早来学園は7つの部活動中3つが地域移行し、3つが検討中、1つが廃部。また、部活動の地域移行に際し新たな種目3団体がその受け皿として加わっている。委託内容は、中学校部活動のクラブ化、クラブ運営体制の構築、指導者確保の取り組みと報酬の支出、指導者研修の実施、クラブ会員の練習試合等における送迎手段の確立が主な内容。今年度は歳出26

18万5000円、歳入1781万6000円で予算計上。

**質問** 英語検定に關して、各学校と地域の連携について現状と方向性を伺います。

**答弁** 英語検定のみならず、漢字検定、数学検定について各学校の判断で、実施されてきた、現在学校職員の働き方改革の中、教育委員会としては、各種検定は学校判断で実施する事を妨げないという見解を校長会で示している。必要に応じて地域と連携して実施されるとの認識。

**質問** 追分中学校が英検に關して校長会で地域連携禁止と通達され、生徒へのお知らせを配付しなかったとの事だが、他校との対応に違いがあるのはなぜか。

**答弁** 英語検定を含め地域との連携を禁止すると指示を出した事実はない。

**質問** 早来学園の学校教育の検証について伺います。

〔教育環境(学校施設)、不登校児童数の推移(開校から現在まで)等〕

**答弁** 地域開放としてのまなびおが特徴的。早来学園の不登校児童の推移は令和5年度29名、令和6年度末23名。不登校対策は、本人の気持ちの尊重を受容、学校外の機関の活用、家庭内での支援や段階的な登校支援が有効。教室へ入りづらく欠席となってしまう児童生徒に対する対応は教室以外への登校として保健室登校・まなびおへの登校も可能である事から、教育環境として選択肢がある状況。

**質問** 本年6月26日に開催される、道外民間企業主催のセミナー(参加費寄付制)への講師派遣について、派遣目的と趣旨を伺います。

**答弁** あそびーB A名古屋(団体)主催。保育の延長線のまちづくりと題して。井内教育長を講師派遣。無報酬、旅費の実費負担は主催団体。教育長として出張扱い。寄付金が多額に集まった場合は安平町へ寄付される。

英語検定、学校との地域連携禁止

# 北海道町村議会議長会の表彰状を伝達



小笠原直治議員と高山正人議員のお二人が15年の永きにわたり安平町議会議員として地域の振興発展に寄与・貢献されたことに対し北海道町村議会議長会から表彰され、3月18日の第5回定例議会開会前、議場において議長から表彰状が伝達されました。

## 【議会事務局からのお知らせ】

議長宛の文書や案内状などは、議長公務日程調整のため、議会事務局に送付下さいますようお願いいたします。

### ☆議会・委員会活動

(4月から6月まで)

議会広報特別委員会	4月18日
第4回臨時議会及び 全員協議会	4月30日
全員協議会 (町民センター視察)	5月13日
全員協議会	5月23日
議会運営委員会	6月12日
第5回定例議会	6月18～19日
議会運営委員会	6月19日
全員協議会	6月30日

### 過去の議会録画映像と 会議録の視聴ができます

会議録を読む

録画映像を見る

※会議録は令和4年9月分以降から開始しました

## あ と が き

今年も追分中学校、追分小学校、追分子ども園と体育祭や運動会を拝見させて頂きました。精一杯、競技に集中している子供達を見ていると自分の子どもや親戚でもないのについ応援にも力が入ってしまいます。その中でも感心したのが競技だけではなく、応援や準備、片付けまでそれぞれの年齢などに応じて一生懸命やっている姿です。また、できていないところに大声を出して注意するのではなく何気ない言葉や態度でサポートする先生たちや上級生の姿にも感動しました。9月からは「追分の学校を考える会」も設置に向けての住民説明会も始まります。そのような子ども達の姿に恥じることはないよう大人の姿を示していきたいなと思いを馳せた大会でした。

議会広報特別委員会

委員 箱崎 英輔

